

めん類への支出

- 家計調査（二人以上の世帯・単身世帯）結果より -

皆さんは、11月11日が「めんの日」であることをご存じでしょうか。今月は「めんの日」にちなみ、めん類の支出に注目してみましょう。

注1) 全国製麺協同組合連合会が平成11年に提唱。

夏はそうめん、冬はそば

「生うどん・そば」及び「乾うどん・そば」の1世帯当たりの支出金額を月別にみると、「生うどん・そば」は、年越しそばを食べる12月が最も多く、そうめんや冷麦を含む「乾うどん・そば」は、6月～8月の夏場にかけて支出金額が多くなっています（図1）。

図1 「生うどん・そば」及び「乾うどん・そば」の月別支出金額（平成20～22年平均 二人以上の世帯）

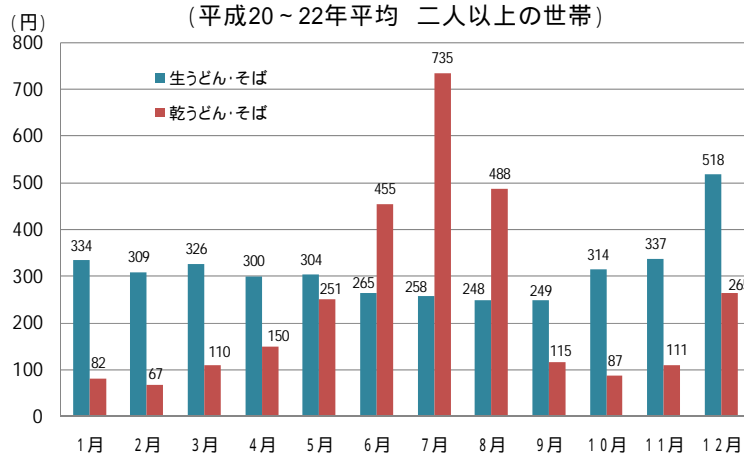
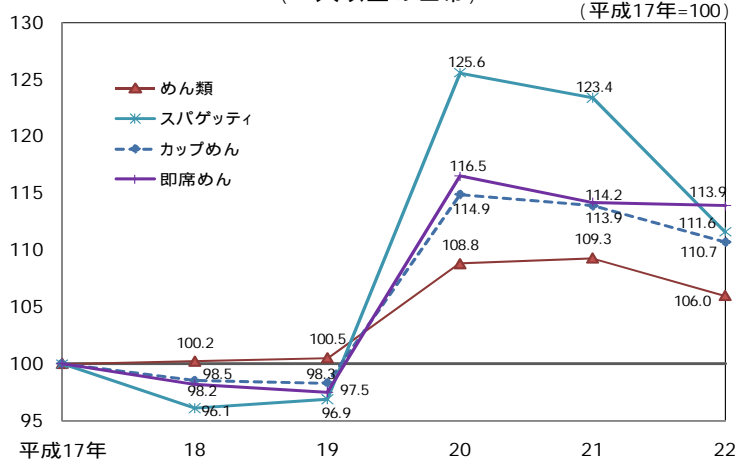


図2 めん類の平均価格指数の推移（二人以上の世帯）



調査結果に見る穀物等の価格高騰の影響

平成20年に穀物価格や原油価格が高騰しましたが、めん類について、購入単価（平均価格）の指数の推移をみると、20年は前年と比べ8.3ポイント上昇しています。特に「スパゲッティ」、「カップめん」及び「即席めん」が大きく上昇しており、以降高い数値で推移しています（図2）。

男女で異なるめん類への支出傾向

最後に、単身世帯の結果から男女別のめん類への支出傾向をみると、男性は女性より支出金額が多くなっています。また、男性の場合は、調理済みで簡単に食べられる「カップめん」及び「即席めん」への支出割合が高く、一方、女性の場合は、「生うどん・そば」、「乾うどん・そば」など調理前のめん類への支出割合が高いことがうかがえます（図3）。

図3 男女別めん類に属する品目の支出割合（平成20～22年平均 単身世帯）

